

## 02

Chapter

富士フイルムグループの  
価値の源泉

## Chapter 02 | CONTENTS

- 22 事業の全体像
- 23 グローバルネットワーク
- 24 イノベーションの進化
- 26 イノベーションの礎を築いた製品
- 27 イノベーションを支える独自技術
- 28 価値創造プロセス
- 29 イノベーションを生み出し続ける仕組みと価値の源泉



## 事業の全体像

富士フイルムグループは、写真事業を通して培った先進・独自の高度な技術力を活用し、イノベーションを進化させ、現在の事業ポートフォリオを構築しました。経営環境が変化してもイノベーションを創出し続けることのできる事業ポートフォリオを目指しています。

### 📷 イメージング

「撮影」から「出力」まで、  
写真・映像に関わる製品・サービスを提供

📷 **コンシューマーイメージング** P53

「Instax“チェキ”やカラーフィルム、写真プリント用カラーペーパー、現像・プリント機器、写真プリントサービスなどを提供

📷 **プロフェッショナルイメージング** P53

ミラーレスデジタルカメラのほか、TV放送・映画用レンズ、セキュリティカメラや製造ライン検査向けの産業用レンズ、プロジェクター、デジタルサイネージなどを提供

### 🏢 ビジネス イノベーション

新しい働き方への変革や生産性の向上、  
創造性の発揮をもたらす、製品および  
ソリューションサービスを提供

🏢 **ビジネスソリューション** P51

業種・業務の特性に合わせたシステムインテグレーション、クラウドサービス、複合機管理などの課題解決型ソリューションを提供

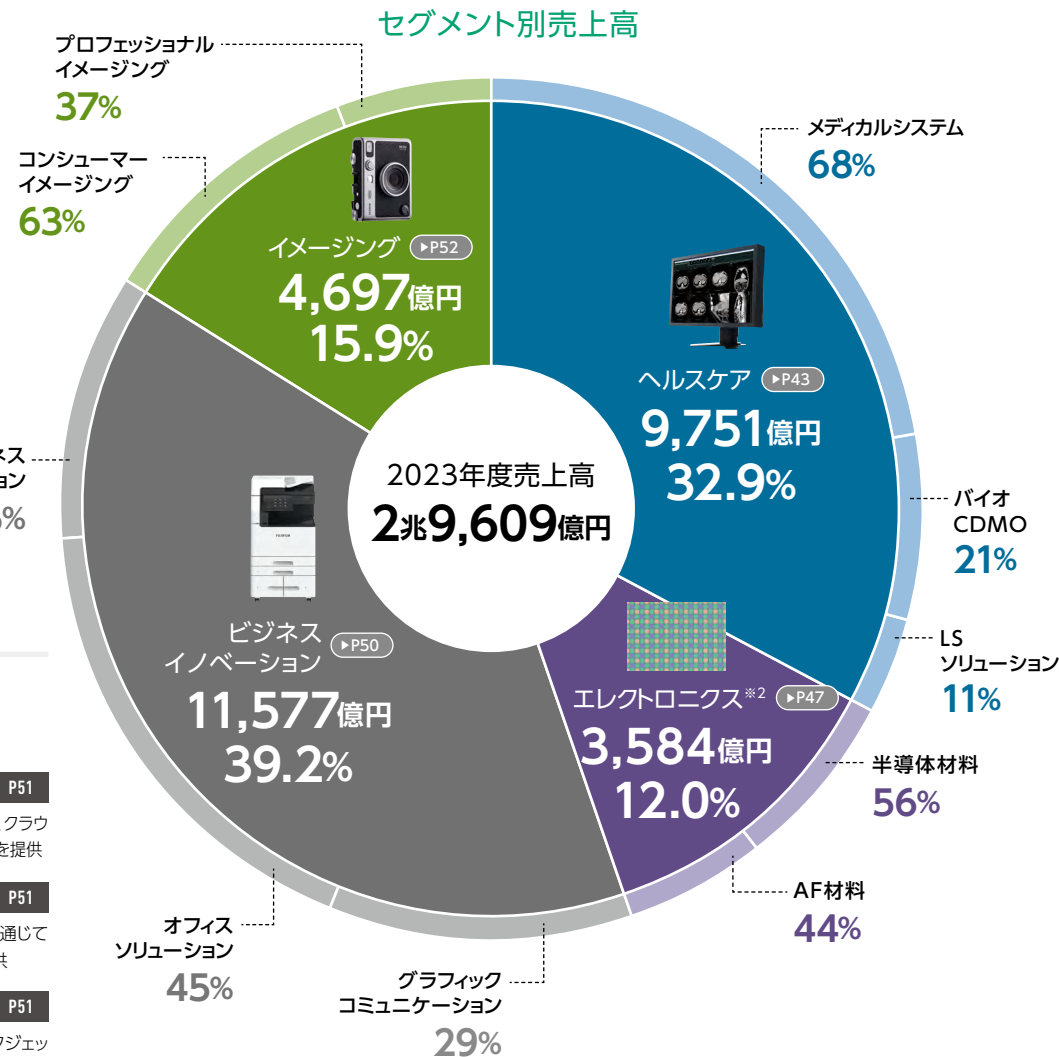
🏢 **オフィスソリューション** P51

複合機・プリンターや消耗品の販売、保守サービスを通じてドキュメントに関わるオフィス向けソリューションを提供

🏢 **グラフィックコミュニケーション** P51

オフセット印刷用機材やデジタル印刷システム、インクジェット関連製品を提供

※2 グラフィックコミュニケーション事業を「エレクトロニクス」セグメントから「ビジネスイノベーション」セグメントに組み替えて表示しています。



### 🏥 ヘルスケア

トータルヘルスケアカンパニーとして  
「予防」「診断」「治療」の領域で幅広い事業を展開

🏥 **医療システム** P44

X線画像診断、内視鏡、超音波、体外診断などの各種診断機器や、診断画像などを一元管理する医療ITシステムを提供

🏥 **バイオCDMO** P45

抗体医薬品や細胞治療薬・遺伝子治療などのバイオ医薬品のプロセス開発・製造を受託

🏥 **LSソリューション** P46

iPS細胞・培地・試薬など創薬支援材料、細胞治療薬のプロセス開発・製造受託、次世代医薬品やmRNAワクチンなどのプロセス開発・製造受託、「ASTALIFT」ブランドをはじめとする機能性化粧品やサプリメント、CRO事業※1などを提供

※1 Contract Research Organizationの略。薬効評価や安全性試験などのサービスを提供し、製薬企業やバイオベンチャー、アカデミアなどが行う医薬品の研究開発を支援

### 🏭 エレクトロニクス

半導体材料やディスプレイ材料などの先端技術で  
電子機器の高性能化を支える事業を展開

🏭 **半導体材料** P48

半導体を製造する際に使用される各種材料(フォトレジスト、CMPスラリーなど)を提供

🏭 **AF材料** P49

液晶・OLED(有機EL)パネル向け材料やタッチパネル用センサーフィルム、記録メディア、高機能化成品、研究開発用試薬などを提供

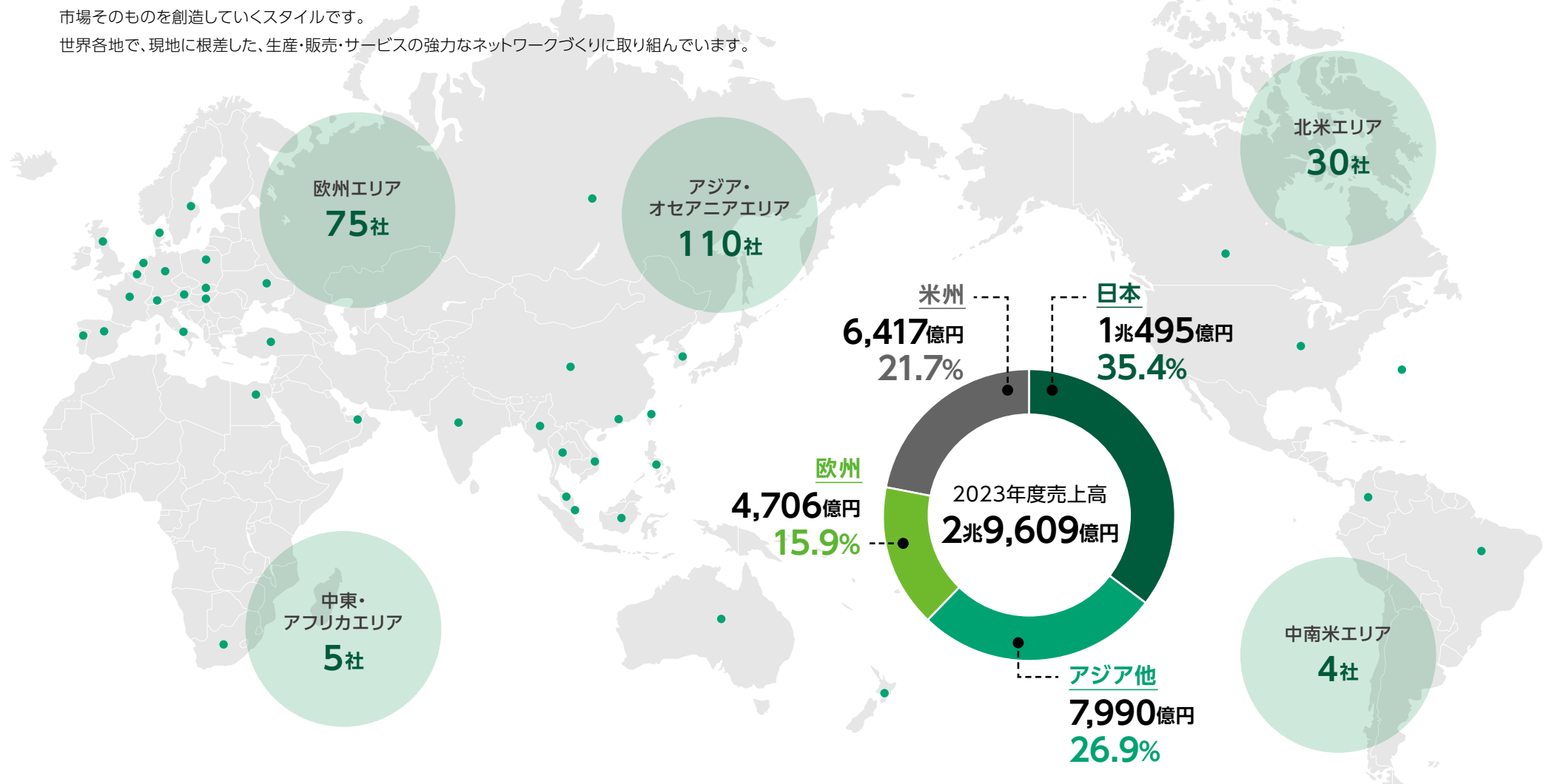
## グローバルネットワーク

### 世界に広がる富士フィルムグループ(国内・海外別売上高)

当社は、創業から4年後の1938年に輸出を開始。1958年には販売会社をブラジルに設立し、以降、積極的に海外展開を進め、グローバル企業として成長しました。海外ビジネスは、“ローカライゼーション”、つまり自ら市場の中に入ってニーズを掘り起こし、市場そのものを創造していくスタイルです。世界各地で、現地に根差した、生産・販売・サービスの強力なネットワークづくりに取り組んでいます。

### ワールドワイドの連結子会社

**272社** 2024年3月31日現在  
日本の48社含む



# イノベーションの進化

1934年の創業から現在に至るまで、基盤技術をもとに、持続的に競争優位性を築くためのコア技術を確立しました。そのコア技術と共に発展してきたイノベーションの歴史を紹介します。

1934 フィルム国産化への挑戦  
(ガラス乾板～フィルム)



大日本セルロイド株式会社から  
写真フィルム事業を継承し  
「富士写真フィルム株式会社」を設立  
国産初の映画用ポジフィルムを初出荷

1935



富士クロームフィルム



富士レントゲンフィルム

1936

1940



射点観測写真機



航空写真用レンズ  
フジF5 50cm

1948

カラー化への挑戦(白黒～カラー)と、  
高品質なモノづくり文化の確立・システム化



富士カラーフィルム



フジカシックスIA



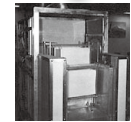
富士引伸機B型

1950



電子顕微鏡による  
ハロゲン化銀解析(研究所)

1964



富士ハンガー型  
自動現像機XP-1

映画用フィルムの自社開発を決意。  
原材料も戦時下のため、  
自給せざるを得ませんでした。

映画用フィルムの国産化  
を達成後、一般撮影用  
フィルム、印画紙、レント  
ゲンフィルムに製品を拡大。  
カメラ製造を目指して、  
光学ガラスの研究と製造  
に成功

シアン、マゼンタ、イエローの3  
つの発色層を必要としたため、  
多層塗布技術を獲得

混色しないように、カプラーを  
それぞれのゼラチン層中に均  
一に分散させるため、オイル分  
散技術を獲得

カラー発色は、感光した銀塩と現像主薬が反  
応し、その反応物とカプラーが反応して発色  
する複雑なメカニズム。酸化還元反応を精密  
にコントロールする技術を獲得

カメラ、引伸ばし露光装置、現像  
処理機を自社開発し、高品質を追  
求。このシステム化の過程で必要  
なメカ、エレキ、光学技術を獲得

カラー化により使用素材が格段に多くなり、フィルムも  
多層になった。高い品質保証・画像レベルが求められた  
ことに伴い、技術・プロセスが進化。その過程で微小分  
析、微量分析の高度な解析技術と画像技術を獲得

## 基盤技術

### 材料 化学

化合物の分子構造、状態を自  
在に制御して、不可能に可  
能にする新しい材料を作り出す力

### 銀塩乳剤の研究と製造

(銀塩は高感度の可視光感光性がある物質)

### ゼラチンの研究と製造

(優れたゾルゲル特性、銀塩を均一に分散さ  
せる特性)

### フィルムの研究と製膜

(セルロイドは燃えやすいため、不燃性の「TAC  
フィルム」と「PETフィルム」を研究し自社製造)

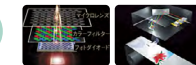
### 増感色素の研究と製造

目で見た状態に近い写真画像を生成するた  
めに増感色素が不可欠

ロールからロールへの写真用材料の塗布製  
造技術

## 基盤技術

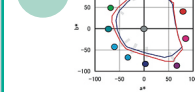
### 光学



これまで高品位画像を  
扱うため磨いてきた独  
自の技術に加え、省エ  
ネルギー、環境対応技術  
を保有しています。デジ  
タルカメラ、医療機器  
などの各分野のハード  
ウェア設計に生かされ  
ています。

## 基盤技術

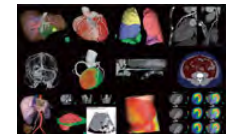
### 解析



材料の機能設計に欠かせない  
機能解析・シミュレーション  
技術をはじめ、分子・原子レ  
ベルやナノサイズ領域での分  
析・解析・評価・シミュレー  
ション技術がディスプレイか  
ら医療までさまざまなイメ  
ージングの解析・評価に生  
かされています。

## 基盤技術

### 画像



写真の特性である画像の色、  
画質といった画像品質を評  
価する技術がディスプレイか  
ら医療までさまざまなイメ  
ージングの解析・評価に生  
かされています。

## 現在 コア技術

### 粒子形成技術

写真フィルムの感光粒子から  
顔料まで、ナノサイズで粒  
子をコントロールして形成  
する技術。さまざまな製品  
の高機能化を実現しています。

### 機能性ポリマー 技術

特定の機能を発揮するポリマ  
ー材料を設計・合成する技  
術。例えば、マイクロカプ  
セルやマイクロフィルター  
など、機能、品質の優れ  
た製品を支えています。

### 機能性分子技術

有機化合物を設計・合成する  
技術。例えば色と光をコン  
トロールする分子設計に  
基づき化合物を合成し、各  
種製品の高機能化を実現  
しています。高機能の化  
成開発に貢献しています。

### 製膜技術

単層/多層/3次元構造のフィ  
ルムを成形する技術。溶液  
/熔融製膜により、さま  
ざまなポリマーのフィル  
ム成形が可能で、材料の  
設計・処方から加工まで  
の各プロセスに関連し  
ます。

### 精密成形技術

高精度な金型への材料を精  
密に転写、固化する技  
術。レンズ、医療機器、  
化粧品容器などの設計  
製造に生かされています。

### 精密塗布技術

高機能材料をフィルム上に  
マイクロ単位で多層均一  
にコーティングする精  
密塗布技術と、光学特  
性などの機能を制御し  
てフィルムを流延製  
膜する技術。さまざま  
な機能性フィルムを安  
定的に高品質で製造  
しています。

### ナノ分散技術

ナノサイズの微粒子を安  
定に液中に分散させる  
技術。機能性材料の塗  
液の安定化から染料、  
インク、化粧品まで  
さまざまな製品の高  
機能化、高品質化に  
貢献しています。

### 酸化還元 制御技術

有機化合物/無機化合物の連  
続的な反応をコント  
ロールする技術。  
「チエキ」などのイ  
ンスタントカメラに  
は長年の写真技術で  
培われた酸化還元  
制御技術が集約され  
ています。

# イノベーションの進化

富士フイルムグループは、コア技術を組み合わせ、さらに新たな技術を獲得することにより、社会課題の解決へと貢献する数々の製品・ソリューションを社会に提供してきました。

## 1970年～1999年

### 拡大期

デジタル化への挑戦とグローバル化の加速

1983 **世界初**  
デジタルX線画像診断装置「FCR」発売



Focus [Q 詳細はP26](#)  
世界で初めてX線写真のデジタル画像化に成功

## 2000年代

### 成長領域の探索期

第二の創業期  
～強固な事業ポートフォリオの構築へ

2003 **世界初**  
「ダブルバルーン内視鏡」発売



2004 **世界初**  
フルデジタル内視鏡「サビエンティア」発売

2007  
エイジングケアを目的としたスキンケアシリーズ「ASTALIFT」発売



## 2010年代

### 成長領域の検証期

事業ポートフォリオの強化と成長の加速へ

2011  
バイオ医薬品の開発・製造受託(バイオCDMO)事業に本格参入



2018  
AI技術ブランド「REIL」発表



2016  
軽量移動型デジタルX線撮影装置「FUJIFILM DR CALNEO AQRO」発売  
携帯型X線撮影装置「CALNEO Xair」発売



## 2020年代

### 成長期

社会にポジティブなインパクトをもたらす価値を創出し、マーケットをリード

2023  
デジタルマンモグラフィシステム「AMULET SOPHINITY」発売



2021  
「医療クラウドサービス」提供

2023  
半導体用プロセスケミカル事業を展開

基盤・コア技術を生かして幅広い製品・ソリューションを展開

ヘルスケア

1965 **日本初**  
PS版「SK」「GKN」発売

1983  
「フォトレジスト」輸入販売開始後、製造にも着手

Focus [Q 詳細はP26](#)  
フォトレジストや液晶ディスプレイ用カラーフィルター材料などの製造にも着手し、エレクトロニクス材料事業として発展を遂げる

1995 **世界初**  
WV(ワイドビュー)フィルム発売

2002  
液晶ディスプレイ用ワイドビューフィルムの本格的な販売を開始

2012  
BaFe(バリウムフェライト)磁性体使用の大容量磁気テープを開発



エレクトロニクス

1975 **業界初**  
フルカラー複写機「富士ゼロックス6500」発売



Focus [Q 詳細はP26](#)  
ソリューションビジネスの先駆けとなる、業務改善につながるアプリケーションにも注力

1987 **世界初**  
印刷・複写の両機能を備えた「ゼロプリンター100」発売



2002 **業界初**  
コンビニ店頭のコピー機から個人文書を取り出せる「ネットプリント」サービス開始

2002  
中小規模事業所向けインターネット環境提供サービス「beat」開始

2009  
環境負荷削減ソリューションを提供する「ApeosPort-IVシリーズ」発売

2011  
ドキュメント共有支援クラウドサービス「Working Folder」提供



2020  
個室型ワークスペース「CocoDesk」提供



2023 **世界初**  
接着機能を持つ「圧着トナー」発売



ビジネスインバースョン

1976 **世界初**  
高感度カラーネガフィルム「フジカラーF-II 400」開発



Focus [Q 詳細はP26](#)  
アマチュア向けとして世界最高感度を誇るネガフィルムを発売し、技術力の高さや製品に対する信頼性、ブランドイメージを向上・確立させる

1986 **世界初**  
レンズ付フィルム「フジカラー写ルンです」発売



1988 **世界初**  
フルデジタルカメラ「FUJIX-DS-1P」開発

1998  
インスタントカメラ「チェキ」「instax mini 10」発売

2000 **世界初**  
「スーパーCCDハニカム」搭載デジタルカメラ「FinePix 4700Z」発売



2015 **世界初**  
4Kカメラ対応放送用ズームレンズ発売



2019 **世界最高**  
1億2千万画素のラージフォーマットセンサー搭載「FUJIFILM GFX100」発売



2019  
スマートフォン用プリンター「instax mini Link」発売

2021  
ハイブリッドインスタントカメラ「instax mini Evo」発売



イメージング

1962  
富士ゼロックス設立

2001  
富士ゼロックス連結子会社化(当社の出資比率を75%に変更)

2004  
米国Arch Chemicals, Inc. より同社Microelectronic Materials部門を買収

2008  
富山化学工業買収  
医薬品事業に本格参入

2012  
SonoSite買収、超音波診断分野に参入

2017  
和光純薬工業買収

2021  
日立製作所の画像診断関連事業を承継した富士フイルムヘルスケアの買収完了  
2022 Inspirata, Inc.のデジタル病理部門買収  
2023 Entegris, Inc.よりプロセスケミカル事業を買収

支えるM&Aなど

## イノベーションの礎を築いた製品

富士フィルムグループは、常に時代の先を読み、独自技術を進化させながら画期的な製品・サービスを世に送り出してきました。事業を通じて社会課題の解決に貢献する精神は、現在の当社のビジネスにも息づいています。



イメーシング

### 世界初の高感度カラーネガフィルム 「フジカラーF-II 400」発売

1976

1976年、当社は世界に先駆けて高感度一般用カラーネガフィルムを発表。ストロボの使いにくいステージなど室内の写真でも補助光なしでの撮影やスポーツなどの動きの速い被写体でもブレのない写真撮影が可能になりました。気軽に美しいカラー写真を写すことができるようになり、カラー写真の撮影範囲が大幅に拡大。富士フィルムブランドを一躍国際ブランドに引き上げました。



「フジカラーF-II 400」

ビジネス  
イノベーション

### 業界初のフルカラー複写機 「富士ゼロックス6500」発売

1975



「富士ゼロックス6500」

オフィス分野では、競合他社の参入で競争が激化する中、1973年に初の自社開発による世界最小サイズの複写機「富士ゼロックス2200」、1975年に業界初のフルカラー複写機「富士ゼロックス6500」、1978年に中速機の価格で小型・高速・高性能を実現した複写機「富士ゼロックス3500」を発売。この頃から業務改善につながるアプリケーションにも注力しはじめ、ソリューションビジネスの先駆けとなりました。



ヘルスケア

### 世界初のデジタルX線 画像診断装置「FCR」発売

1983

メディカルシステム事業は1936年のX線フィルムの販売から始まりました。X線画像のデジタル化にいち早く取り組み、1981年に世界初のデジタルX線画像診断装置「FCR (Fuji Computed Radiography)」の開発を発表し、1983年に発売を開始。「デジタル時代の先駆け」として注目を集め、今に続く「医療のデジタル化」をけん引してきました。現在は、長年培った高度な画像処理技術を生かし、DR (Digital Radiography) 方式のシステムを中心に、低線量・高画質小型化を進めたシステムを提供し、画像診断のさらなる効率化と医療の質の向上に貢献しています。



世界初のデジタルX線画像診断装置「FCR」

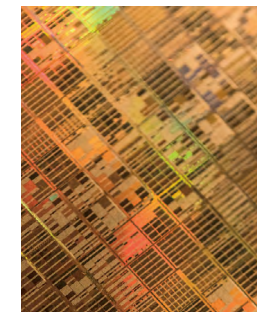


エレクトロニクス

### 半導体の回路形成に不可欠な 感光性ポリマー材料「フォトレジスト」の 輸入販売を開始し、製造にも着手

1983

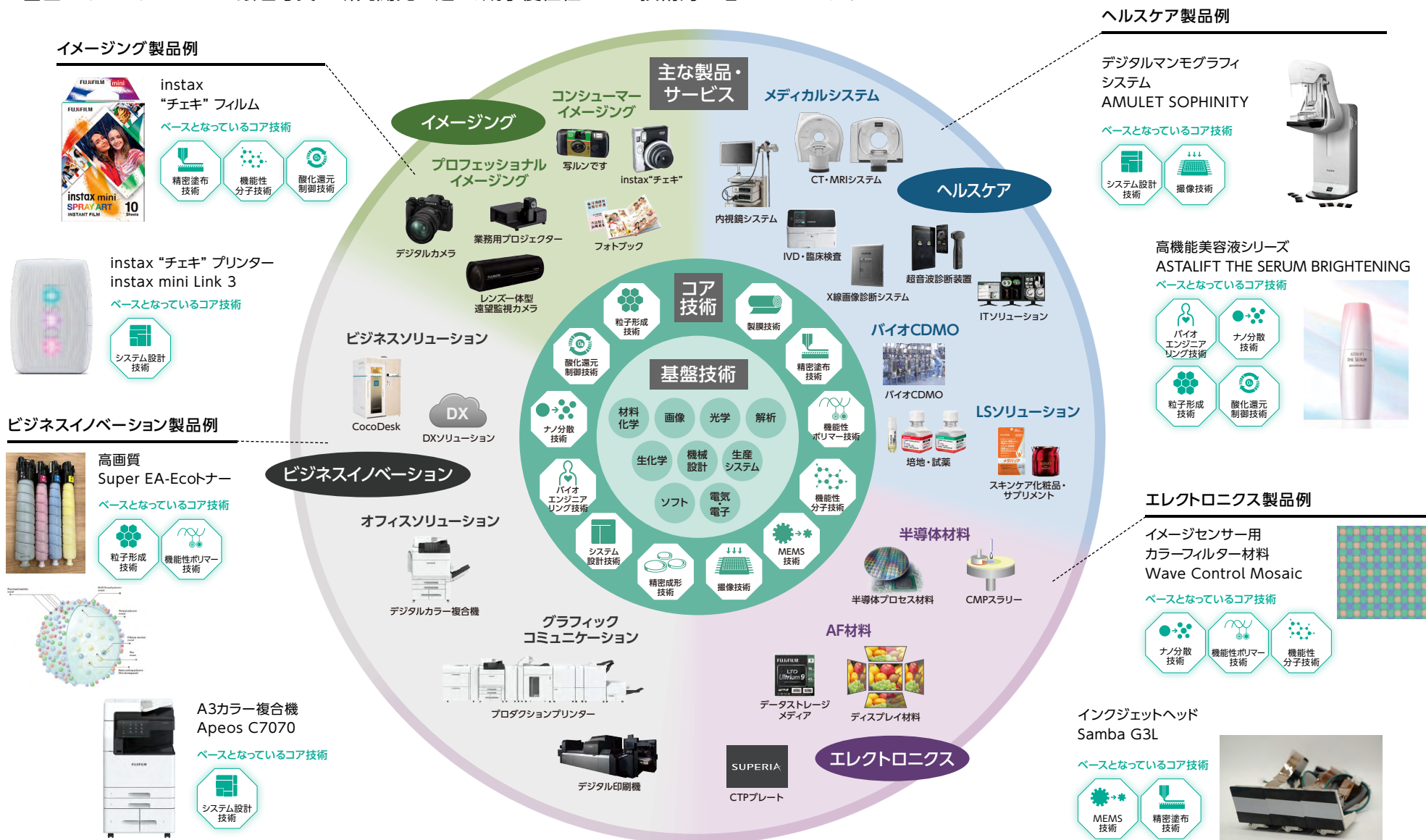
1983年、米国・Philip A. Hunt Chemical Corporationとの合併で富士ハントエレクトロニクステクノロジー(現 富士フィルムエレクトロニクスマテリアルズ)を設立し、半導体の回路形成に不可欠な感光性ポリマー材料「フォトレジスト」の輸入販売を開始。その後、フォトレジストや液晶ディスプレイ用カラーフィルター材料などの製造にも着手し、エレクトロニクスマテリアルズ事業として発展を遂げていきました。



# イノベーションを支える独自技術

1枚の写真が完成するまでの工程は、多種多様な先進・独自の技術によって成り立っています。

富士フイルムグループは銀塩写真の研究開発を通じ、競争優位性のある技術力を培ってきました。



### イメージング製品例



instax “チェキ” フィルム  
ベースとなっているコア技術



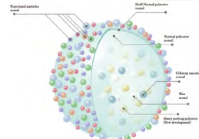
instax “チェキ” プリンター  
instax mini Link 3  
ベースとなっているコア技術



### ビジネスイノベーション製品例



高画質  
Super EA-Ecoトナー  
ベースとなっているコア技術



A3カラー複合機  
Apeos C7070  
ベースとなっているコア技術



### ヘルスケア製品例

デジタルマンモグラフィシステム  
AMULET SOPHINITY

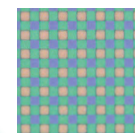


高性能美容液シリーズ  
ASTALIFT THE SERUM BRIGHTENING

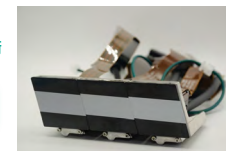


### エレクトロニクス製品例

イメージセンサー用  
カラーフィルター材料  
Wave Control Mosaic



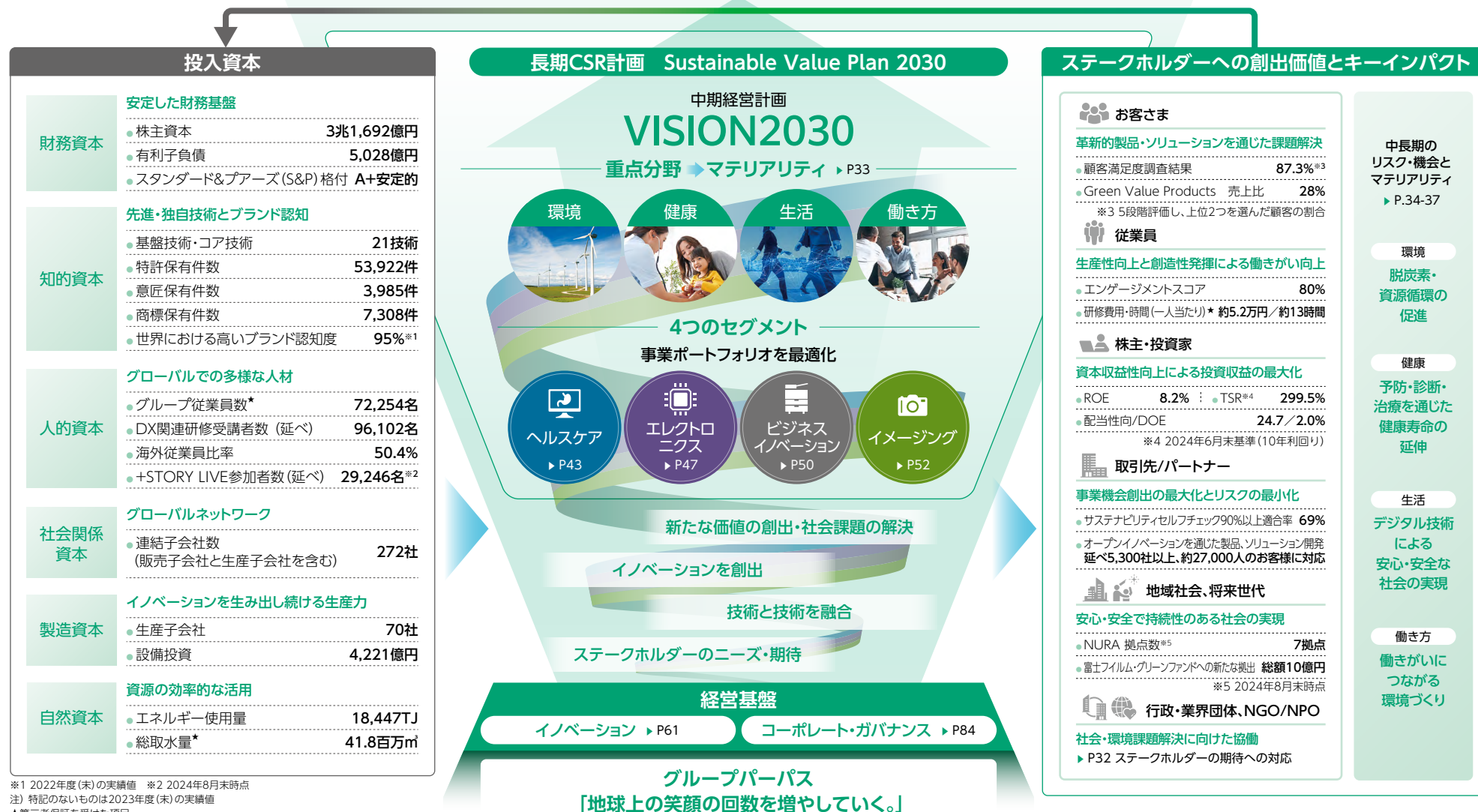
インクジェットヘッド  
Samba G3L



# 価値創造プロセス

富士フイルムグループは、投入した資本を生かし、イノベーションによる価値の創造によって、事業を通じた社会課題の解決と事業プロセスにおける環境・社会への配慮を図ってきました。今後も社会と価値を共創しながら、サステナブル社会の実現に貢献していきます。

## サステナブル社会の実現 Value from Innovation





# イノベーションを生み出し続ける仕組みと価値の源泉

富士フィルムグループは、常にイノベーションを生み出し続けることで、時代によって変化する社会のニーズに合致した最高品質の製品・サービスを提供してきました。また、現在のニーズだけではなく、潜在的なニーズも掘り起こしながら、サプライヤーやパートナーを含むステークホルダーと未来に続く価値を共創しています。

## サステナブル社会の実現

### ステークホルダーと未来価値を共創



共創

多様な顧客の声に対応



共創

サプライヤーとの共創



共創

最高品質を提供



### 顧客から共創パートナーへ

富士フィルムグループ サプライヤー 顧客・パートナー

### 新たな価値の創出・社会課題の解決



技術と技術を融合し、  
イノベーションを創出

### 社会のニーズは モノからモノ+コトへと変化

未来に続く価値

体験価値

機能価値

### 変化する社会のニーズ

## イノベーションの源泉

### 知的資本

#### 技術力 ▶ P61-68

研究開発、知的財産、デザイン、DXが密接に連携しながら持続的な競争優位性を築くための技術力を進化させ、社会課題の解決に貢献する革新的な製品・サービスを提供します。

基盤技術の蓄積

コア技術の研鑽

複合的な技術の融合

### 人的資本

#### 企業風土

「オープン、フェア、クリア」な企業風土の下、従業員一人ひとりのアスピレーション(志)が新たな価値創造と富士フィルムグループの持続的な成長を支えています。

「オープン、フェア、クリア」な  
企業風土

#### 人材 ▶ P69

変化に挑み続ける企業文化を継承し、多様な人材が能力を最大限発揮できる組織づくりを推進するとともに、事業の変革を先導する人材の育成に注力しています。

変化を成長のチャンスと捉える  
人材育成

高い従業員エンゲージメント

#### 信頼 ▶ P75、P77

祖業の写真フィルムの製造は、撮影前に試すことができない[信頼]を買っていただく製品であり、当社の企業文化には創業当初からサステナビリティの考え方が根づいています。

環境やお客さまなど  
ステークホルダーからの信頼

### 社会関係資本

#### ブランド

社会課題に真正面から向き合いながら革新的な製品・サービスを提供することで、世界における富士フィルムブランドの価値を向上させ、高い認知度につながっています。

革新的な製品・サービスを  
提供し続けることで  
培われたブランド

#### グローバルネットワーク

当社は、創業から4年後の1938年に輸出を開始。1958年には販売会社をブラジルに設立し、以降、積極的に海外展開や買収を進め、グローバル企業として成長しました。

創業期からの  
積極的な海外展開  
地域統括会社との連携によって  
経営管理機能を強化